

保育体験実習が学生の学習意欲に及ぼす影響についての一考察

中原 大介

A Study of the Influence of Practice Rehearsal in Day Nurseries on Students' Motivation for Learning

Daisuke Nakahara

要約

保育実習後の学生達の感想を聞くと、子どもたちの生き生きとした姿や保育士として働くことの難しさなど様々な思いを持っていることに気づかされる。保育実習は保育士養成の上で中心をなすものである。本校では保育体験実習をこれからの保育実習に対する導入として位置づけ、現場に出ることで実際の子どもの姿やそこで働く保育士の姿を体験的に学習することを目的にしている。保育体験実習を通して、多くの気づきや喜びを学生達は持ち帰ってきた。また、この体験を通じて自らの課題に気づき、新たな目標を持つ事となった学生も少なくない。

保育体験実習は次の実習への単なる導入という目的だけでなく、学生の学習意欲や次の実習へ向かう動機付けにも大きな役割を果たしているのではないかと考えられる。

本稿は保育体験実習が学生のその後の実習に対する意欲、また学習に対する意欲にどのような影響を及ぼすのかを検討したものである。まず、2005年8月に実施された保育体験実習での事前指導についてまとめ、その上で実習後に学生が提出した質問紙による自己評価、実習を終えての感想を検討した。

キーワード：保育体験実習 学習意欲 実習への動機付け

2005年9月30日受理（教育研究）

初めに

今年もまた新しく1年生が入学し、保育士・指導員への夢を目指し第一歩を踏み出した。様々な経験を経て入学してきた学生も多くいるが、大半の学生は初めて受ける授業などに戸惑いもあっただろう。そのような中で彼らは新しい知識、経験に対して期待を抱いている。その中でも特に大きな不安と期待を抱いているのは、これから始まる保育実習に対してであろう。

2001年6月に厚生労働省雇用均等・児童家庭局より「指定保育士養成施設における保育実習の実施基準について」通知がなされた。その中に「保育実習の目的」として『保育実習は、その修得した教科全体の知識、技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用能力を養うため、児童に対する理解を通じて保育の理論と

実践の関係について習熟させることを目的とする。』と明記されている。

勿論、通知の内容を受けるまでもなく保育士養成課程において、保育実習は大きな役割と重要性を担っている。だからこそ、どの養成校もその教授法に工夫を重ね、また保育士養成における研究会でも実習のあり方について様々な検討が重ねられていると言えるだろう。

さらに、学生にとって保育実習での体験、経験がその後の彼らの学習意欲や学生生活に取り組む姿勢に大きな影響を及ぼしていることは経験上よく語られている。また、彼らの今後の保育士・指導員としての育ちにも大きな影響を及ぼすと思われる。

そこで、本稿では2005年8月に大阪総合福祉専門

学校児童福祉科の1年生に対し、本実習の導入として行われた3日間保育体験実習の取り組みをまとめていく。

さらに、彼らが実習後記入した実習記録や感想文を手がかりに彼らの今後の学習意欲や実習への動機（モチベーション）にどのような影響を及ぼしたのか検討を重ねていくこととする。

1. 3日間保育体験実習の意義と取り組み

実習には「保育の場において、乳幼児が保育士の保育活動の下に健やかに生活し、それぞれの能力を発達させている様子に学び、子どもへの理解を深める。」という目的がある。本校では、その後の保育実習をより成果あるものとするために事前に体験実習を行うこととしている。

保育所で実際に初めて保育現場に行くことで、「①保育所の一日の流れを知る。②保育所ではどんな職員が働いているかを知る。③保育所における実際の子どもの姿を知る。④保育士の仕事の内容を知る。」これらの課題を達成することを目標としていた。それに加え、保育実習に関する事前オリエンテーションや実習に関する書類の作成について事前学習を行うこと目的としてきた。保育体験実習の実施時期は5月末から6月の初め頃に行われていた。今年度も従来のようにこれから始まる保育実習に対する準備、さらに前述した4つの目的を達成することを目標とした。

今年度は従来の実習期間を1日間から3日間へと変更した。その理由として、保育実習で必要となる書類作成について十分な指導が行えなかったことがある。その反省をふまえ、従来目的にあわせ実習書類作成についても力を入れることとした。その為、体験実習実施時期を8月とし、事前指導についても多くの指導時間を取るようにした。

まず、3日間保育体験実習へ向けて導入部分として、絵本と手遊びについてのグループ学習と発表を行った。子どもたちと関わっていく上で重要な手がかりになる絵本と手遊びについて自主的に学習を行い、発表しあうことで3日間保育体験実習へ向けて学生達が意欲を高めていく手がかりとした。

その後、具体的な保育体験実習へ向けての手続、実習の意義と目的の説明等に入っていた。今回行った指導計画については以下の通りであった。

(表1)

回数	内容	備考
1	実習ノート配布 実習先発表 3日間保育体験実習の意義と目的 実習指導計画について	
2	実習関係書類の書き方 実習ノートの書き方	
3	保育所とはどんなところかを知る	ビデオ視聴
4	実習留意事項について	
5	実習報告会について	
6	事前訪問	教員による引率を行った。
7	直前指導 諸注意・事後指導について	
	3日間保育体験実習	
8	実習報告会準備	
9	実習報告会	

・実習関係書類の書き方

実習時に必要となる書類の作成を行った。書類の内訳としては、個人票（実習先に対する自己紹介）、誓約書（実習を行うに当たっての守秘義務の履行等を実習園に誓約するもの）、出勤簿の作成を行った。

・保育所とはどんなところかを知る

ビデオ視聴を行い、感想文を作成した。保育所での取り組み、一日の流れを理解するための取り組みを行った。

・実習留意事項について

実習全般についての実習生としての心得、実習に当たって注意しなければならない点について実習ノートを用いて指導を行った。

・実習報告会について

本校では各実習終了後にグループに分かれ、それぞれの実習体験を元に実習報告会を行っている。お互いの実習体験を共有し、テーマに沿って深めあうことを目的としている。

・事前訪問

事前訪問とは保育実習に入る前に、各実習施設と先だっで行われるオリエンテーションの事である。保育実習では、学生自身が実習園と連絡を取り、訪問する。今回の保育体験実習では、オリエンテーションの行い方などを教員が引率の上で体験をした。

・実習報告会準備

各グループに分かれ、実習ノート、実習報告書を元に各グループで討論を行い、レジュメを作成した。また、学生の自主的な報告会運営の為に各グループで司会、書記、タイムキーパーの選出を行い、さらに報告

会当日の司会、書記、タイムキーパーを互選した。

・実習報告会

各グループよりレジュメの配布及び発表を行った。発表後、質疑応答を行い、さらに発表内容を深めた。

以上のような取り組みを行った。

2. 保育体験実習のまとめを通して

3日間の保育体験実習を行った後、学生達は以下のような項目について自己点検を行っている。実習ノート最終ページに組み込まれた質問票によって自己点検を行った。自己点検を行った時期は3日間保育体験実習が終了した翌日（8月初頭）であり、全回答者数は55名であった。

- 1 理解できない行動をする子どもがいましたか？
(いた・いなかった・わからない)
- 2 子どもにことばをかけて、そのことばに応じてくれた経験がありましたか？
(あった・なかった・わからない)
- 3 子どもにことばをかけて、そのことばに応じてくれなかった経験がありましたか？
(あった・なかった・わからない)
- 4 子どもと手をつないだり、抱っこしたりして、触れ合ったことがありましたか？
(あった・なかった・わからない)
- 5 触れ合ったとき子どもはどんな様子でしたか？記述してください。
(自由記述)
- 6 保育士の子どもに接する姿に感じたことを3点、書いてください。
(自由記述)
- 7 保育士に指導や助言を受けたり、指示や注意されたことがありましたか？
(あった・なかった・わからない)
- 8 実習日誌を読み返して、日誌の書き方で気づいた事がありましたか？どんなことか記述してください。
(自由記述)
- 9 実習中元氣よくあいさつができましたか？
(できた・できなかった・わからない)
- 10 実習生として言葉遣いに気をつけて過ごせたか
(できた・できなかった・わからない)
(実際に使用した質問票は別途資料として、文末に掲載した。)

1) 分析

それぞれの項目について、単純集計を取り分析を

行った。

1. 理解できない行動をする子どもがいましたか？

「いた」と回答した学生が33名(60%)、「いなかった」と回答した学生が18名(32.7%)であった。「わからない」と回答した学生が4名(7.3%)であった。

2. 子どもにことばをかけて、そのことばに応じてくれた経験がありましたか？

表2 理解できない行動をする子どもがいましたか？

	選択肢	回答数	
(1)	いた	33	60.0%
(2)	いなかった	18	32.7%
(3)	わからない	4	7.3%
	無回答	0	0.0%
	計	55	100.0%

「あった」と回答した学生が54名(98.2%)、「わからない」と回答した学生が1名(1.8%)であった。「なかった」と回答した学生はいなかった。

3. 子どもにことばをかけて、そのことばに応じてくれなかった経験がありましたか？

表3 子どもにことばをかけて、そのことばに応じてくれた経験はありましたか？

	選択肢	回答数	
(1)	あった	54	98.2%
(2)	なかった	0	0.0%
(3)	わからない	1	1.8%
	無回答	0	0.0%
	計	55	100.0%

「あった」と回答した学生が43名(78.2%)、「なかった」と解答した学生が5名(9.1%)であった。また、「わからない」「無回答」とした学生が7名(12.7%)であった。

表4 また、応じてくれなかった経験はありましたか？

	選択肢	回答数	
(1)	あった	43	78.2%
(2)	なかった	5	9.1%
(3)	わからない	5	9.1%
	無回答	2	3.6%
	計	55	100.0%

4. 子どもと手をつないだり、抱っこしたりして、触れ合ったことがありましたか？

「あった」と解答した学生が55名(100%)であった。保育体験実習に参加した学生は全て何らかの形で子どもたちと「ふれあった経験が出来た」と解答している。

表5 子どもと手をつないだり、抱っこしたりして、触れ合ったことがありましたか？

	選択肢	回答数	
(1)	あった	55	100.0%
(2)	なかった	0	0.0%
(3)	わからない	0	0.0%
	無回答	0	0.0%
	計	55	100.0%

5. 触れ合ったとき子どもはどんな様子でしたか？記述してください。

何らかの記述があった学生が54名(90.9%)、無回答だった学生が1名(5.5%)であった。

自由記述の内容は概述すると以下のような内容であった。

a. 子どもの笑顔、嬉しそうな姿について記述されたもの

子どもの笑顔や嬉しそうな姿について記述されたものは14件であった。特に子どもの表情や保育活動中の様子を見て、「生き生きとしている」と感じた学生が多いように感じられた。

<回答例>

「とても元気そうで笑ってくれた。」
 「すごい笑顔だった。明るかった。生き生きしていた。」
 「笑顔で一杯笑いかけてくれた。」
 「本当に嬉しそうに、楽しそうにしてくれていた。」

b. 「モットモット」「もう一回やって」と記述されたもの

子どもたちと実際に関わる中で、「だっこ」や「たかいたかい」をすると多くの子どもたちが寄ってきて「モットモット」「もう一回やって」と言われた様子を記述したものが7件であった。学生達の受け止め方は「困った」というような否定的な受け止め方ではなく、「子どもたちは嬉しそうだった」と肯定的に受け止め

ているようであった。

<回答例>

「すごく嬉しそうで『モットモット』と言っていました。そういつてくる子が増えました」
 「にこにここと笑ってくれたのを次から次へとだっこしてと子どもたちが何人も来た」
 「だっこしたときにとっても嬉しそうに笑って「まただっこ」と何回もねだりに来ました。」

c. 様々な子どもの様子が記述されたもの

「笑顔で嬉しそう」という記述と「人見知り」や子どもに嫌がられたなど両方の記述があったものは21件であった。その中には実習初日と最終日で子どもたちとのかかわりを変化したという記述のものや、泣く子と笑う子に分かれた等の記述が見られた。

<回答例>

「人見知りをして嫌がる子どももいれば、顔を胸につけて安心した様子の子どものもいた。」
 「素直で、笑ったり、泣いたり。」
 「泣く子と笑う子に分かれました。」
 「嫌がる子もいれば喜んで子どもから触れてきてくれる子もいる。触れるのが好きな子はすごく嬉しそうにしてくれた。」

d. その他

子どもの様子を具体的に記述した回答が12件見られた。子ども達の様子を様々に表現していたが、子どもの喜ぶ様子や子どもたちが実習生に甘える様子が見られた。また、子どもたちとのかかわりの難しさについて記述されたものもあった。

<回答例>

「すごく楽しそうにされていて、爪をたてて上ってきたりした。」
 「楽しそうにしてくれたが、みんなが一斉に来たのでみんなに平等にするのが難しかった。」
 「すごくにこにこして片言で必死にしゃべってくれました。」
 「『先生遊ぼう、こっち来て』って感じですがすぐに慣れてくれたのが良かった。」

表 6-1 触れ合ったとき子どもはどんな様子でしたか(総数)?

	選択肢	回答数	
(1)	自由記述あり	54	98.2%
	無回答	1	1.8%
	計	55	100.0%

表 6-2 触れ合ったとき子どもはどんな様子でしたか?(内訳)

	選択肢	回答数	
a.	子どもの笑顔	14	25.9%
b.	「モットモット」	7	13.0%
c.	様々な子どもの様子	21	38.9%
d.	その他	12	22.2%
	計	54	100.0%

6. 保育士の子どもに接する姿に感じたことを3つあげてください

現場の保育士が子どもと関わる姿を見て実習生が感じたことを回答する項目で、3つの項目を全て回答した学生と1つないしは2つのみ回答した学生がいた。

全ての回答を以下の5つのカテゴリーに分類した。のべ回答数は165件で、得られた回答数は152件であった。

- a. 保育士の目線について述べたもの
- b. 言葉(言葉遣い、声かけ、話し方等)について述べたもの
- c. 子どもたちのほめ方、しかり方について述べたもの
- d. 優しい、笑顔、厳しい等保育者から受けたイメージについて述べたもの
- e. その他

a. 保育士の目線について述べたもの
「子どもの目線で話をしていた」等、保育士が子どもと接するときの目線について述べた記述は18件(11.8%)であった。声かけ、話し方に通じる項目でもあるが、しっかりと子どもの目線にあわせて保育士が声かけ、話をしていた事に強い印象を受けたと思われる回答が見られた。また、物理的に目線をあわせるだけでなく子どもと同じ立場に立って、物事を考え、対応している点について述べている回答もあった。

<回答例>

「子ども目線で喜んだり、遊んだりしていた。」
「子どもの目線で話す。」
「目線をあわせて、同じ視線で接していた。」
「ちゃんと子どもの目線に立ってみてた。」

- b. 言葉(言葉遣い、声かけ、話し方等)について述べたもの

「見通しのもてるような声かけをしていた。」など、保育士の言葉について述べられた記述は22件(14.4%)であった。子どもたちへの言葉掛けの多さや、子どもたちにあわせた言葉掛けを心がけている保育士の様子が学生達の印象に残ったようであった。

<回答例>

「子どもにわかりやすく話をしていた。」
「常に声かけを忘れない。」
「一人一人に言葉掛けをしていた。」
「話し方が、大きな声で、ゆっくりとわかりやすくなっている。」

c. 子どもたちの褒め方、叱り方について述べたもの
「時には厳しく、時には優しく」等、子どもたちに対する褒め方、叱り方について述べたものが36件(23.6%)であった。叱り方についてはまず子どもたちに対し、その理由を理解できるように叱っていることについて記述されているものも多く見られた。褒め方については、「ほめるときにはしっかりほめる」など保育士がしっかりと子どもたちを認める事について、注目しているようであった。

<回答例>

「ほめるときにはしっかりほめる事」
「叱るときはしっかり何でこうなったのか話を聞いて叱ること。」
「きちんと出来た子には、ほめて言葉掛け。」
「ほめるときはほめて、怒るときはちゃんとしっかり怒る。」

- d. 優しい、笑顔、厳しい等保育者から受けたイメージについて述べたもの

「笑顔」、「やさしい」、「子どもに真剣に向き合っていた」など保育者から受けたイメージを記述したものは26件(17.1%)であった。概して、笑顔や優しさをイメージして記述されたものも多く見られたが、中には厳しい態度をもって子どもたちに接していたと記述されたものも見受けられた。単に厳しいということではなく「子どもに真剣に向き合う」という解釈をしていたものが多かったのではないかと思われる。

<回答例>

「優しい」
 「笑顔」
 「子どもたちに対してすごく優しい表情で接していた」
 「頼もしい」

e. その他

その他には「常に子どもみんなに気を配っていた」、「全体を見ていた」など集団全体に目を配っている保育士の様子を述べたものが5件(3.9%)あった。また、「何でもやってあげるのではなく、子ども自身にやる力をつけさそうとしていた。」など子どもの自主性をのばすようなかわりに注目したものが6件(3.9%)あった。さらに「けんかになったらちゃんとその子に聞く。」等、けんかの仲裁に関わる記述が5件(3.9%)見られた。その他の記述は34件(22.3%)であった。

<回答例>

「常に子どもみんなに気を配っていた」
 「けんかなど、出来るだけ子どもたち同士で解決させていた。」
 「全体の動きを見て、個人への対応をしていた。」
 「子どもたち本人にやらせてあげること。意志をつくってあげる。」

表7 保育士の子どもに接する姿に感じた事

	カテゴリー	回答数	
a.	保育士の目線	18	11.8%
b.	ことば	22	14.5%
c.	褒め方、叱り方	36	23.7%
d.	保育士イメージ	26	17.1%
e.	その他	50	32.9%
	計	152	100.0%

7. 保育士に助言を受けたり、指示や注意されたことがありますか

実習期間中に実習先の保育士から助言を受けたり、指示や注意されたことがありますか、という質問は「あった」が46名(83.6%)、「なかった」が5名(9.1%)、「わからない」が3名(5.5%)、無回答が1名(1.8%)という結果であった。

表8 保育士に助言を受けたり、指示や注意された事がありましたか

	選択肢	回答数	
(1)	あった	46	83.6%
(2)	なかった	5	9.1%
(3)	わからない	3	5.5%
	無回答	1	1.8%
	計	55	100.0%

8. 実習日誌を読み返して気づいたこと

「実習後に実習日誌を読み返して気づいたこと」という質問に対しての回答は、記述のあったものが52名(94.5%)、無回答が3名(5.5%)であった。

中には「少し工夫が足りない。おおざっぱに書きすぎた。もう少し細かく書いた方が良かった。」「だんだん書き方が大雑把になってきている。どんな書き方が分からない。」など、細かく記録をとれなかったことに対する記述が見られた。また、「一日の流れは同じ」や、「3日間とも、一日の流れは同じだった」という記述に見られるような、保育の流れを実感することが出来たように見受けられるものもあった。

表9 実習日誌を読み返して気づいた事

	選択肢	回答数	
(1)	自由記述	52	94.5%
	無回答	3	5.5%
	計	55	100.0%

9. 実習中元気よく挨拶できましたか

大半の51名(92.7%)が「できた」と回答し、4名(7.3%)が「わからない」と回答している。

表10 実習中元気よく挨拶できましたか

	選択肢	回答数	構成比
(1)	できた	51	92.7%
(2)	できなかった	0	0.0%
(3)	わからない	4	7.3%
	無回答	0	0.0%
	計	55	100.0%

10. 実習生として言葉遣いに気をつけて過ごせたか

「できた」とした学生が47名(85.5%)、「できなかった」と回答した学生が3名(5.5%)、「わからない」と回答した学生が5名(9.1%)であった。

表 11 実習生として言葉遣いに気をつけて過ごせたか

	選択肢	回答数	
(1)	できた	47	85.5%
(2)	できなかった	3	5.5%
(3)	わからない	5	9.1%
	無回答	0	0.0%
	計	55	100.0%

2) 考察

項目1～4の回答について考察すると次のような学生の姿が見えてくる。まず、3日間の体験実習の中で、「子どもたちとふれあう経験」は全員ができたと考えている。

また、子どもたちに言葉掛けを行い、子どもたちもその言葉掛けにこたえてくれたという経験を多くの学生ができたとしている。中には初めて保育の現場へ出た学生も多かったと思われるが、子どもたちに積極的に関わっていったことがこの結果から読み取れる。

その反面、「理解できない行動をする子どもがいましたか」については6割の学生が「いた」と回答している。

また、「子どもに言葉をかけて、その言葉に応じてくれなかった経験がありましたか」という設問に対して8割近い43名の学生が「あった」と回答している。

この3日間保育体験実習は前期授業終了後の8月初頭に実施された。この回答からは具体的にどの様な行動を「理解できなかった」のか、どの様な「言葉を掛けた」のかを読み取ることは出来ないが、まだ学習途上にある学生達が子どもたちとどの様に関わって良いのか分からずとまどった一面も読み取ることが出来る。

項目5「ふれあったときの様子はどうでしたか」に対する自由記述では、非常に生き生きとした子ども達の姿に関する記述を見ることが出来た。その前提として実習園で生き生きと活動する子どもたちの姿があったと考えられる。しかし、それ以上に学生達が保育の現場に対して、そこで生活する子どもたちに対して強い興味と暖かい目を持って体験実習に臨むことが出来ていたと考えられるのではないだろうか。

項目6「保育士の子どもに接する姿に感じたことを3つあげてください」では、学生達が「保育士の目線」、「言葉」、「ほめ方、しかり方」、「全体を見ていた」、「けんかの仲裁」等々、これから彼らの保育実習での課題

となるであろう事にこの時点で着目していた。

学生達はこれから本格的に子どもの発達や保育内容などについて学んでいく。しかし現時点においても子どもに対する見方、保育士のかかわりに対する見方について、かなりしっかりと見方を持っているのではないかと思われた。

項目7～10は、実習を行う上で大切な社会的習慣や実習記録についての項目であった。言葉遣い、挨拶などは実習だけでなく日常生活においても気を配ってほしい項目であるが、初めての实習ということもあり、緊張感も手伝ってしっかりと出来たと考えられる。また、実習記録について現時点では「まず記録を取る」という事柄に専念してもらいたいとの思いもあり、時間など細かく記述するようには指導していなかった。

しかし、そのような中でも「大雑把だった、細かく記述できれば良かった」など3日間の体験を通して実習記録を取ることの難しさや、記録を取ることで一日のサイクルを知るといった目的を達成できたと考えられるのではないだろうか。

3. 3日間保育体験実習を終えて

3日間保育体験実習を終え、各クラスで実習報告会を行った。その後、(1)3日間保育体験実習の感想、(2)実習報告会の感想、(3)実習（事前・事後指導・3日間の実習）を通しての疑問、質問などという3つの項目で自由記述の課題を提出した。

本章ではそのうちの(1)3日間保育体験実習の感想の項目を分析考察することで、学生達の今後の学習や実習に対する意欲にどの様な影響を与えたのか検討することとする。

1) 分析

自由記述されたものを以下の6つのカテゴリーに分類し、分析を行うこととする。

- 1 実習を終えて、改めて保育士になるという決意を新たにしたもの
- 2 この実習での経験を次の実習へ生かしたいという気持ちが表れたもの
- 3 もっと勉強をして、実習へ行きたかった（行きたい）という気持ちが表れたもの
- 4 生活面（言葉遣いなど）に気を配り、次の実習へ臨みたいとしたもの

- 5 机上の学習だけでなく、体験を伴った学習（実習など）を頑張りたいとしたもの
- 6 またその園へ行ってみたい、子どもたちと出たいという気持ちが表れたもの

以上の項目に分類した結果、全体55名のうち、33名（60.0%）が以上の項目のいずれかが含まれる記述を行っていた。中には一名が複数の項目に当たる回答をしている例があり、全体で40件が上記項目に該当した。

- 1 実習を終えて、改めて保育士になるという決意を新たにしたもの

この記述が見られたものは全体のうち9件（22.5%）であった。3日間の体験実習を終えて、「改めてすごい仕事だと思った。」や「すごく憧れた」など現場で働く保育士の姿を見て、実際の仕事の大変さや保育士のすばらしさを改めて実感し、思いを新たにしたいという記述が見受けられた。

<回答例>

「3日間すごく楽しかった。やっぱり保育士になりたいと改めて実感した。」
「私の保育士への第一歩だと考えていきたいと思います。」

- 2 この実習での経験を次の実習へ生かしたいという気持ちが表れたもの

この記述が見られたものは全体のうち9件（22.5%）であった。「早く次の実習へ行きたい」というものや、「この3日間の実習を通して学んだことを次の実習へ生かしたい」という記述が見られた。

<回答例>

「この経験を次回の実習に役立てたいと思う。」
「まだまだ『あのときはこうすれば良かった』という点がいくつもあったので、次の11月にはそれを修正できるように頑張りたいです。」

- 3 もっと勉強をして、実習へ行きたかった（行きたい）という気持ちが表れたもの

この記述が見られたものは全体のうち9件（22.5%）であった。その中には「もっと手遊びなどを覚えてい

きたい」や「手話を覚えたい」など具体的な目標を示したものがあつた。また、「本当に学んでいかなければならない」や「もっと勉強を頑張っていきたい」など具体的な目標を示してはいないが、日常の学習の大切さに気づき、より頑張りたいとした記述も見られた。

<回答例>

「だからこれから一杯勉強して良い保育士になりたいなあと思いました。」
「これから勉強も頑張っていきたい、卒業した後は、ちゃんと保育士として働いているように頑張っていきたいです。」

- 4 生活面（言葉遣いなど）に気を配り、次の実習へ臨みたいとしたもの

この記述が見られたものは全体のうち2件（5.0%）であった。「言葉遣いは急には直せないの、今から直していこうと思っている。」や「ふつうにバイトしているのと同じ感覚ではダメだなと、すごく思いました。」との記述が見られた。

- 5 机上の学習だけでなく、体験を伴った学習（実習など）を頑張りたいとしたもの

この記述が見られたものは全体のうち5件（12.5%）であった。「学校で座って勉強しているときには絶対出来ない体験ができたり、考えを持てたりとても勉強になったと思う」という記述や「実際の現場に行つて先生達の子どもへの接し方などがすごく分かつて良かった」という記述などがみられた。学生達が実際に体験して学ぶ事の大切さを知ることが出来たと考えることが出来るだろう。

<回答例>

「やっぱり実習とか実際にやってみないと、机の上だけでは体験できないことも出来るから実習は良いなあーと思いました。」
「この3日は、どちらかと言えば、勉強よりもふれあうことを優先していった。それで良かったと思っています。」

- 6 またその園へ行ってみたい、子どもたちと出たいという気持ちが表れたもの

この記述が見られたものは全体のうち6件（15.0%）であった。「また、（園名）保育園で実習をしたいと思いました。」という記述や「今、こんなに小さい子

どもたちが、どんな風に成長しているのかを見てみたい。」という記述などが見られた。他、このカテゴリーには含めなかったが、「3日間が短く感じた」や「もっと子どもたちと接していたかった」、「もう一日実習があればと思った」という記述も多く見られた。

表 12 保育体験実習感想文 自由記述(内訳)

	カテゴリー	回答数	
1	実習を終えて…	9	22.5%
2	この実習での経験	9	22.5%
3	もっと勉強して…	9	22.5%
4	生活面（言葉遣い	2	5.0%
5	机上の学習だけ…	5	12.5%
6	その園へ行って…	6	15.0%
	計	40	100.0%

2) 考察

まず、全体の内6割に当たる33名の学生が何らかの形で次の実習や、これからの学習やに対して「頑張りたい」という思いを抱いている点に注目したい。中には「しんどかった」、「大変だった」という記述も見られたが、大半の学生はこの体験実習を通じて自らの意欲を高める事になったのではないかと考えられる。

項目1「実習を終えて、改めて保育士になるという決意を新たにしたもの」については、現場で働く保育士の姿を実際に目の当たりにし、また生き生きとした活動をする子どもたちと関わることで、本校へ入学するに当たっての願い、「保育士・指導員になりたい」という願いを再確認できた学生が多く見られた。その中には「保育士の先生のすごさ」や「あこがれの先生のようにになりたい」と現場で体験実習を行ったからこそ持ち得た感想が多く見られたのが印象的であった。

項目2「この実習での経験を次の実習へ生かしたいという気持ちが表れたもの」については、保育士の仕事の大変さを理解しながら、こんな保育士になりたいという思いをふくらませていく過程の中で、早く次の段階へ進んでいきたいという学生の気持ちが表れているように感じられた。また、実習で学んだことについて具体的に記述されているものは少なかった。しかし、質問票を検討してみると「保育士の子どもに接する姿に感じたことを3つあげてください」という項目に多くの「気づき」が述べられていた。彼らが得た、学

んだと感じた中身はそれらのような「気づき」ではなかったと思われる。それが「数多くのことをこの3日間保育体験実習で得て、さらに次の実習に臨んでいきたい」という記述につながっているのではないだろうか。

項目3「もっと勉強をして、実習へ行きたかった（行きたい）という気持ちが表れたもの」についてはもっと勉強をしていけば子どもたちと上手に関われたのではないかと感じているものや、保育士の先生方の動きや子どもたちとのかかわりを見る中でもっと学習が必要であると認識した学生が多かった。前項でも述べたが、具体的に「手遊び」など目標を掲げる学生もいたが、大半の学生は具体的な目標をあげずに「勉強が必要だ」という気持ちを記述した者が多く見られた。「勉強」の中身に触れたものは多くなかったが、「勉強」の中身についてどの様に学生達が考えているのかを検討することも重要となるだろう。現段階の検討では机の前に座って行う学習と人として育つという学習と二つの意味を含めて書かれていたように思われる。

項目4「生活面（言葉遣いなど）に気を配り、次の実習へ臨みたいとしたもの」は少数の意見であったが、前章の「保育士の言葉遣い」に触発されたり、実際に現場の先生からご指導いただいた事が現れたりしているように思われる。3日間の体験の中で、子どもたちに対する声かけの大切さを知り、また声かけを実践している先生方の姿をみてその必要性を実感したことも影響を与えているのではないかと考えられる。また、「普段から気をつけなければならない」と気づいている所にも着目する必要がある。実習では保育士としての体験、技術はもちろんのこと、社会人として現場で行動することも要求される。近年、「言葉遣いがない」「挨拶が出来ない学生が増えた」という声を耳にすることも多いが、実際の保育の現場で改めて「言葉遣い」について、自覚する学生も多いのではないだろうか。

項目5「机上の学習だけでなく、体験を伴った学習（実習など）を頑張りたいとしたもの」については、短い3日間という期間ではあったが、実際の子どもの姿や保育の現場を知ることが、大きな経験になっているという結果を導き出すことが出来る。勿論、現場の先生方や子どもたちの作り出す暖かい、楽しい雰囲気は彼らに大きく影響していることも考えられる。それ以上に、日常の学習を通して、また、入学するまで夢

見ていた保育の現場を実際にその目で見ることでより具体化したイメージを持つことが出来た喜びが表れているように感じられた。

項目6「またその園へ行ってみたい、子どもたちと出会いたいという気持ちが表れたもの」については、子どもたちと親しくなり、また現場の先生の明るさや親切に指導して下さった経験から、離れがたかったという記述も見られた。何よりも子どもたちと関わるのが楽しく、その別れが寂しいと感じられたということは彼らにとって継続的に子どもたちと関わりたい、また保育の現場から離れがたいという気持ちの現れではないだろうか。

おわりに

これまで、3日間保育体験実習を終えた後の学生達の提出物から検討を重ねてきた。3日間保育体験実習においては、保育実習に関する事前準備や「保育所の一日の流れを知る」等、4つの柱を基にして体験的に学習することを目的としてきた。

これらの目的は、今回検討の対象外とした実習報告会での発表の様子などを見ると、所定の目的は達成できたと考えても良いだろうと思われる。それ以上に学生達は初めて（初めてでない者もいるが）の保育現場での経験、子どもたちとのかかわりを通して様々な事柄を学んできた。

質問票の回答にあったように、これから彼らが実習でぶつかるであろう課題に気づいてきたことも大きな成果であったと考えられる。実際に働く保育士の姿を見て、目線の大切さ、声かけの大切さと難しさ、子どもたちに向かう姿勢についても体験的に学ぶことが出来ていたのではないだろうか。また、実際の保育の現場で起きた子どものけんかの仲裁や、各園が力を入れておられるであろう、子どもの自主性を育てる取り組みについても敏感に感じ取ることが出来ていたように思われる。

実習終了後の感想文の分析によると、学生達の保育士に対する「憧れ」と保育士・指導員になるという「決意」を読み取ることも出来たのではないかと考えている。より具体性を持って、その後の学習に臨む目標を得たと推測される感想文もあった。反面、決してモチベーションが高いと感じられる質問票、感想文ばかりではなかった。しかし、どの学生達についても共通して言えるのは、生き生きとした子どもたちへの関心が

高く、子どもたちが好きだ、と感じ取れる内容が多かったことである。

本稿では、3日間保育体験実習終了後の提出物から、体験実習が学生達に及ぼした影響について検討してきた。体験実習前後での学生達の動機の変化を調査するためにつくられた質問票・感想文ではなかったために、彼らの体験や実感を正確に表していると断言することは出来ない。しかしながら、概観しただけであるが、彼らにとっての第一歩である保育体験実習は想像以上に彼らの気持ちに大きな影響を及ぼしていることは読み取ることが出来た。保育体験実習は学生達の学習、実習への動機付けを高める役割を果たしたと考えることが出来るであろう。

これからの実習課題としては、学生達も感じている実習記録の取り方や実際に子どもに関わる際の姿勢や技術の習得などがあげられる。決して、楽しい、嬉しいという学習の中身ばかりではないだろうが、この3日間の経験を糧に次の実習へと気持ちを高めていてもらいたいと考えている。

また、実習指導を行う側としては実習時期の問題や体験実習を行うことで、自信を失ったり、動機を高めることが出来なかった学生達に対するフォローをどの様に行い、次の実習へと取り組む姿勢を作り上げていくことが出来るかということも大きな課題となるであろう。

もう少し早い時期に体験実習を行うことが出来れば、早い時期から学習に対する意欲や実習に向かう姿勢についても深めることが出来るであろう。また、実習先で疑問に感じたことや力がまだ及ばないと感じたことについてもより細かくフォローできるのではないだろうか。学習したことを実際の現場で実践し、さらに新しく学んだことを学校での学習を通して高めていく。体験実習を通じて、学生達の学習、実習に対する動機をより高いものにする。その効果によって体験実習後の実習においても、より高い学習効果が得られるのではないだろうかと考える。

最後にこの研究ノートをまとめるに当たって、様々なアドバイスを頂いた大阪総合福祉専門学校の実習担当の先生方、この研究ノートをまとめるきっかけを与えてくれた学生達に感謝の意を表したい。

<参考文献>

大阪総合福祉専門学校 児童福祉科 「3日間保育体験実習の記録」
大阪総合福祉専門学校 児童福祉科 2005年度 3日間保育体験実
習 事前指導レジュメ

(なかはら だいすけ 大阪総合福祉専門学校教員)

「3日間保育体験実習」を振り返って

年 組 氏名

◎理解できない行動をする子どもがいましたか？

いた

いなかった

わからない

◎子どもにことばをかけて、そのことばに子どもが応じてくれた経験はありましたか？

あった

なかった

わからない

◎また応じてくれなかった経験はありましたか？

あった

なかった

わからない

◎子どもと手をつないだり、抱っこしたりして、触れ合ったことがありましたか？

あった

なかった

わからない

◎触れ合ったとき子どもはどんな様子でしたか？ 記述してください。

◎保育士の子どもに接する姿に感じたことを3点、書いてください。

1.

2.

3.

◎保育士に指導や助言を受けたり、指示や注意されたことがありましたか？

あった

なかった

わからない

◎実習日誌を読み返して、日誌の書き方で気づいた事がありましたか？どんなことが記述してください。

◎実習中、元気よくあいさつができましたか？

できた

できなかった

わからない

◎実習生としてことばづかいに気をつけて過ごすことができましたか？

できた

できなかった

わからない